

五島列島ジオパーク構想活動支援助成金
事業成果概要【公開用】

事業名	五島列島における南方系植物の分布の再検討
事業の種類	調査・研究事業 / 普及・啓発事業 ※該当する事業に○を記載願います
所属・事業実施者	長崎大学名誉教授 中 西 弘 樹
事業期間	2021 年 7 月 1 日 ～ 2022 年 2 月 25 日
関連分野	植物学 ※事業の分野（地質学／考古学／普及・啓発／保全など）について記載願います
キーワード	南方系植物、分布、北限 ※事業に関するキーワードを 3 点程度記載願います
対象地	福江島およびその属島 ※事業対象の地区や地名（複数の場合は全て）を記載願います

事業成果の概要

1. どうして調べたのか（背景・目的）

五島列島は本土側に見られない南方系植物が多く分布していることが古くから知られていた。ヘゴやリュウビンタイのように、五島が分布の北限として有名になったが、本土側でも発見されてきた。しかし、新たに五島列島で発見され、最北限となった南方系植物もある。その原因は、本土側の調査が十分行われるようになったことだけではなく、最近の温暖化が原因であると考えられる。一方、南方系植物の分布拡大において、風散布と海流散布が重要である。その中で海流散布について調査を行った。熱帯・亜熱帯起源の漂着果実と種子、それらの発芽個体を調べた。

五島列島の南方系植物の分布について再検討をするのが本研究の目的である。

2. どうやって調べたのか（調査・研究手法）

未調査地域を中心に、植生、地形、自然度などを総合的に判断し、多様性が高いと思われる地域の植物相の調査を行うと共に、五島列島の植物分布に関係した最近の論文、記録などを調べ、新しい情報に基づく、五島列島の南方系植物について分布図を作成し、再検討をする。また、海岸の漂着果実や種子、発芽個体の実態の調査を行う。

3. なにが分かったのか（結果と考察）

- ・五島が分布の北限ではなくなった植物（本土側にも発見された植物）

ヘゴ、リュウビンタイ、ヒロハノコギリシダ、ケホシダ

- ・新たに発見された五島が最北限の植物

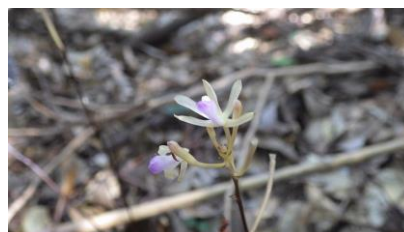
ヒロハミヤマノコギリシダ、マルバホングウシダ、ユウコ克蘭（再発見）、ツルモウリンカ（再発見）、ハマサルトリイバラ

- ・新たに九州西廻り植物と確認された植物

ヒロハミヤマノコギリシダ、マルバホングウシダ、ユウコ克蘭、ヤクシマアカシュラン、ヒロハコンロンカ、ヒロハノコギリシダ、ヒロハネム、ムロトムヨウラン、エダウチチヂミザサ、ヤクシマハチジョウシダ、ヘゴ



ヒロハミヤマノコギリシダ



ムロトムヨウラン

- ・熱帯・亜熱帯性植物の漂着種子起源の実生

2021年12月5日、三井楽町の海岸において、モモタマナ、ゴバンノアシ、ココヤシなど、これまでにない多くの種類の漂着を確認した。

- ・熱帯・亜熱帯性植物の漂着種子起源の実生

2021年11月18日、玉之浦町大宝海岸において、グンバイヒルガオ、ハマアズキなど、これまでにない多くの漂着種子起源の実生（発芽個体）を発見した。